

# 安全データシート

## 1. 製品及び会社情報

製品名 : スーパーバイオタッチ(ハードタイプ) SVT-H  
 製造業者名 : 日本レヂボン株式会社  
 住所 : 〒509-4215 岐阜県飛騨市古川町杉崎260  
 電話番号 : 0577-73-2415  
 F A X 番号 : 0577-73-5704  
 緊急連絡電話番号 : 070-1533-5188  
 推奨用途と使用上の制限 : 主に金属などの研削に使用する。

## 2. 危険有害性の要約

レジンイドといしは、と粒をフェノール樹脂で結合させた混合物で、といしとしての危険・有害性情報は下記の事項があげられる。といしを構成する成分のうち、労働安全衛生法第57条の2、及び化学物質管理促進法(化管法)の文書交付対象物質に該当する純物質の危険有害性情報をGHS分類で列記した。

危険性 : 使用中にといしが破損し、周囲に飛散して人体に当たった場合、人身事故のおそれがある。  
 使用中に発する火花により、火傷と火災のおそれがある。  
 有害性 : 使用中に発生する粉じんを長時間にわたり吸入すると、じん肺に罹るおそれがある。  
 環境影響 : 使用中に発生する粉じんにより、作業環境が汚染されるおそれがある。  
 構成純物質のGHS分類

	酸化アルミニウム	酸化チタン	酸化鉄	ガラス
<b>物理化学的危険性</b>				
火薬類	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外
可燃性・引火性ガス	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外
可燃性・引火性エアゾール	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外
支燃性・酸化性ガス	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外
高圧ガス	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外
引火性液体	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外
可燃性固体	区分外	区分外	区分外	区分外
自己反応性化学品	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外
自然発火性液体	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外
自然発火性固体	区分外	区分外	区分外	区分外
自己発熱性化学品	区分外	区分外	区分外	区分外
水反応性化学品	区分外	区分外	区分外	区分外
酸化性液体	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外
酸化性固体	区分外	区分外	分類できない	区分外
有機過酸化物	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
<b>健康に対する有害性</b>				
急性毒性(経口)	区分外	区分外	分類できない	分類できない
急性毒性(経皮)	分類できない	区分外	分類できない	分類できない
急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外
急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
急性毒性(吸入:粉じん)	分類できない	区分外	分類できない	分類できない
急性毒性(吸入:ミスト)	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類できない
皮膚腐食性・刺激性	分類できない	区分外	区分2	区分2
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	分類できない	区分2B	区分1	区分2B
呼吸器感受性	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
皮膚感受性	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない	区分外	分類できない	分類できない
発がん性	区分外	区分2	区分外	区分外
生殖毒性	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	区分3(気道刺激性)	分類できない	区分3(気道刺激性)	区分3
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	区分1(吸入:肺)	分類できない	区分1(呼吸器系)	分類できない
吸引性呼吸器有害性	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
<b>環境有害性</b>				
水性環境有害性(急性)	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
水性環境有害性(長期)	分類できない	区分4	分類できない	分類できない

## ラベル要素

物質名	酸化アルミニウム	酸化チタン	酸化鉄	ガラス
絵表示				
注意喚起語	危険	警告	危険	危険
危険有害性情報(コード)	呼吸器への刺激のおそれ(H335)  長期にわたる、又は反復ばく露吸入による肺の障害(H372)	眼への刺激(H320)  発がんのおそれの疑い(H350)  長期的影響により水生生物に有害のおそれ(H413)	皮膚への刺激、重篤な眼の損傷(H315+H320) 呼吸器への刺激のおそれ(H335)  長期にわたる、又は反復ばく露吸入による肺の障害(H372)	皮膚への刺激(H315)  眼への刺激(H320)  呼吸器への刺激のおそれ(H335)

## 3. 組成及び成分情報

<物質の特定>

単一製品・混合物の区分

: 混合物

成分情報

名称	化学式又は構造式	重量割合(%)	労働安全衛生法政令番号	適用法令
酸化アルミニウム	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	63.00%	189	労働安全衛生法
酸化チタン	TiO <sub>2</sub>	0.61%	191	労働安全衛生法
酸化鉄	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.02%	192	労働安全衛生法
ガラス	—	19.04%	非該当	—

## 4. 応急措置

吸入した場合

: 粉じんを吸引したら直ちに新鮮な空気のある場所に移し、水で十分にうがい(洗浄)をし、呼吸しやすい姿勢で休息させること。必要ならば医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合

: むやみに擦らず、作業終了後、石ケン水等で洗い流す。必要ならば医師の手当てを受ける。

眼に入った場合

: 粉じんが入ったら直ちに清浄な流水で洗眼する。この時、強く押さえたり擦ったりしないこと。必要ならば医師の手当てを受ける。

飲み込んだ場合

: 多量の水分を飲ませ、嘔吐させる。必要ならば医師の手当てを受ける。

直撃した場合

: (作業中に高速で回転するといしが破損し、といしの破片や被切断物の一部が飛散して人体を直撃)安全な場所へ移動して、必要ならば医師の手当てを受ける。

予想される急性症状

: 作業中に発生する粉じんを吸引すると呼吸器を刺激する。長期的には、じん肺及び遅発性症状や肺障害のおそれがある。

最も重要な徴候及び症状

: 被研削材や切り粉が火花となり、飛散し眼に飛び込んだ場合、眼球に火傷等の傷害が発生する。

応急処置をする者の保護

: 作業中は必ず機械を停止してから処置を行う。

医師に対する特別な注意事項

: といしは鋭利な研削材が表面に存在するので、人体と擦ると切傷が発生する。

## 5. 火災時の措置

消火剤

: この製品自体は燃焼しない。周辺火災に応じて適切な消火剤を用いる。

使ってはならない消火剤

: 情報なし。

火災時の特定危険有害性

: 長時間高温にさらされるとフェノール樹脂が分解・燃焼する。

特定の消火方法

: 特になし。

消火を行う者の保護(保護具等)

: 特になし。適切な保護具の使用が望ましい。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	: 粉じん等が眼に入った場合、水で数分間注意深く洗う。
保護具及び緊急時の処置	: 粉じんを収集する場合は保護具(保護メガネ、防じんマスク等)を着用する。取り扱った後は手を洗うこと。
環境に対する注意事項	: といしの削りカスを河川等に排出しないこと。土壌、水に規制物質が溶出する可能性あり。
回収、中和	: 特になし。
二次災害の防止策	: 特になし。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	: 使用前にこの製品の『安全の手引き』又はケース表示の「ご使用上の注意」と機械及びその他関連する設備等の全ての安全の注意を読み、理解するまで取扱わないこと。 特別教育を受けていない人は、といしの取替え・試運転をしないこと。 といしに表示されている最高使用周速度・寸法などが、機械に適合していることを確認すること。 機械へ取付ける前にといしのひび・割れ・かけ等の外観検査と打音検査をすること。 といしをフランジへ取付ける際は、適正なものを使用しナットを締めすぎないこと。 その日の作業開始前に1分間以上、といしを取替えた時は3分間以上の試運転をすること。 フランジへの取付時、必ず外観・音響チェックを実施し、異常のないことを確認すること。 フランジは、法律に基づいた材質、寸法などのものを使用すること。 決められたといし使用面のみ使用すること。 決められた安全装置(例えば保護カバー)を具備すること。
局所排気・全体排気	: 作業中に粉じんが発生するので、局所排気または全体排気を行うこと。
安全取扱い注意事項	: ①落とさないこと、②ぶつけないこと、③転がさないこと。 回転中のといしに直接身体を触れないこと。
保管	
技術的対策	: 水分、湿気を吸収するとといしの強度が低下するので、湿気を避け通気の良い乾燥した場所で、平らな定盤上または整理棚等にて保管する。
混触禁止物質	: 特になし。
保管条件	: 常温・常湿のところに保管すること。といしは水分の凍結の恐れのある場所に保管しないこと。
容器包装材料	: 取扱い時の衝撃を吸収するような材質を使用すること。

## 8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度	: 3.0mg/m <sup>3</sup>	労働安全衛生法
許容濃度	: 第二種粉じん 吸入性粉じん=1mg/m <sup>3</sup>	日本産業衛生学会 (2005年度版)
	: 第二種粉じん 総粉じん=4mg/m <sup>3</sup>	日本産業衛生学会 (2005年度版)
構成純物質の許容濃度		
酸化アルミニウム	: TLV-TWA 10mg/m <sup>3</sup>	(アスベスト不含、結晶シリカ1%未満の微粒子)
酸化チタン	: TWA 10mg/m <sup>3</sup>	
酸化鉄	: TLV-TWA 5mg/m <sup>3</sup>	
設備対策	: 粉じん対策として集じん装置を設けること又は必要に応じて全体排気をすること。 集じん装置は発生する火花を吸収し火災になる恐れがあるので直接火花を吸収しない対策をすること。	
保護具	: 作業者は必ず次の保護具を着用すること。	
呼吸用保護具	: 国家検定に合格した防じんマスク。	
手の保護具	: 耐火花性のある手袋。	
目の保護具	: 完全防護型の防じん眼鏡。	
耳の保護具	: 耳栓を着用するのが望ましい。	
皮膚及び身体の保護具	: ヘルメット、安全靴、一般的な作業服を着用する。	
保護衣	: 耐火花性のある材質の作業衣を着用。	
適切な衛生対応	: うがい用及び眼洗浄用の水洗の設置が望ましい。	

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など：有色成型品、固体で水に不溶である。

各純物質の物理的及び化学的性質は以下のとおりである。

	酸化アルミニウム	酸化チタン	酸化鉄	ガラス
物理的状態、形状、色など	白色結晶粉末	固体 無色～白色	赤褐色～黒色結晶 又は粉末	繊維状固体、白色 又は有色
臭い	無臭	無臭	金属臭	データなし
pH	データなし	リトマス試験紙で 中性	データなし	データなし
融点・凝固点	2053℃	1855℃	1565℃	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	2980℃	2500-3000℃	データなし	データなし
引火点	不燃性	不燃性	燃焼しない	不燃性
爆発範囲	データなし	不燃性	燃焼しない	不燃性
蒸気圧	0.073Pa (mp.)	データなし	該当しない	データなし
蒸気密度 (空気 = 1)	データなし	データなし	該当しない	データなし
比重 (密度)	3.97	3.5～4.2g/cm <sup>3</sup>	5.24	8～200kg/m <sup>3</sup>
溶解度	水に不溶 非極性有機溶媒に 僅溶	不溶	水に不溶	不溶
オクタノール/水分配係数	データなし	データなし	該当しない	データなし
自然発火温度	不燃性	データなし	燃焼しない	不燃性
分解温度	データなし	1860℃	データなし	データなし
臭いのしきい (閾) 値	データなし	データなし	データなし	データなし
蒸発速度 (酢酸ブチル = 1)	非該当	データなし	該当しない	データなし
燃焼性 (固体、ガス)	不燃性	データなし	不燃性	不燃性
粘度	データなし	データなし	データなし	データなし

## 10. 安定性及び反応性

安定性：通常条件では安定。  
 反応性：なし。  
 避けるべき条件：高温度、高湿度、衝撃。  
 (静電放電、衝撃、振動など)  
 混融危険物質：なし。  
 危険有害な分解生成物：なし。

## 11. 有害性情報

といしとしての呼吸性呼吸器有害性

研削作業時に発生する粉じんを長期間にわたり吸入すると、じん肺に罹るおそれがある。

構成純物質の考慮すべき有害性情報は以下のとおりである。

		酸化アルミニウム	酸化チタン	酸化鉄	ガラス
急性毒性	経口	ラットLD50 >5000mg/kg 区分外	ラットLD50 >20000mg/kg 区分外	データなし	データなし
	経皮	—	ウサギapproxLD50 >10000mg/kg 区分外	—	データなし
	吸入	—	ラットLC >6.82mg/L/4h 区分外	—	データなし
皮膚腐食性・刺激性	データなし	ウサギを用いた試験で皮膚刺激性が殆んど認められない 区分外	皮膚刺激（区分2）	職業暴露で機械的 刺激により強い搔 痒と刺激を生じた これらの機械的刺 激は一時的であ り、5μm以上の繊 維との関連がある 職業暴露で刺激性 の皮膚炎も生じて いる	
眼に対する重篤な損傷・刺激性	データなし	ウサギを用いた試験で軽度の刺激性 区分2B	ヒトの眼に腐食性 がある 重篤な眼の損傷 （区分1）	職業暴露で機械的 刺激性が認めら れている この機械的刺激は 一時的であり、5μ m以上の繊維との関 連がある	
呼吸器感受性又は皮膚感受性	データなし	ヒト、パッチテス トで陰性の記載が ある	データなし	データなし	
生殖細胞変異原性	データ不足	マウス小核試験で 陰性、及びマウス 染色体異常試験で 陰性の記載がある	データ不足	データなし	
発がん性	ACGIHはグループA4 （ヒト発がん性に 分類できない物 質）に分類してい る 区分外とした	IARCでグループ2B に分類されている ことより区分2とし た	ACGIHはグループA4 （ヒト発がん性に 分類できない物 質）に分類してい る 区分外とした	区分外	
生殖毒性	データなし	データなし	データなし	データなし	
特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	上気道刺激性があ るとの記載より区 分3（気道刺激性） に分類した 呼吸器への刺激の おそれ	データ不足	ヒトで咳が見ら れ、息苦しさもあ るとの記載に基づ き、区分3（気道刺 激性）とした 呼吸器への刺激の おそれ	職業暴露で一時的 な気道刺激性が認 められているが、 暴露がなくなると 消失する	
特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	職業ばく露によ り、肺に繊維症が 認められたとの報 告がある。区分1に 分類した	データ不足	良性ではあるが肺 への影響が見られ たこと、および金 属熱にかかる可能 性があることか ら、区分1（呼吸器 系）とした 長期または反復ば く露による呼吸器 系の障害	分類できない ガラス長繊維は吸 入の可能性がな く、また労働者の 疫学調査におい ても健康への有意な 悪影響は認められ ていないとの情報 がある	
	長期または反復ば く露による肺；吸入 の障害	—	—	—	
吸引性呼吸器有害性	データなし	データなし	データなし	分類できない	

## 12. 環境影響情報

- 残留性・分解性：知見なし。  
 生体蓄積性：知見なし。  
 土壤中の移動性：知見なし。  
 起こり得る環境影響：切断・研削等において、研削屑（粉じん・ミストも含む）として少量排出される。  
 構成純物質の考慮すべき環境影響情報は以下のとおりである。

	酸化アルミニウム	酸化チタン	酸化鉄	ガラス
水生環境有害性(急性)	データ不足のため分類できない	データ不足のため分類できない	データ不足のため分類できない	データなし
水生環境有害性(長期間)	データ不足のため分類できない	水溶解度までの濃度で急性毒性が報告されていないが、金属化合物であり水中での挙動が不明であるため、区分4とした  長期的影響により水生生物に有害のおそれ	データ不足のため分類できない	データなし

## 13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物：廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。  
 行政の許可を受けた産業廃棄物業者に、内容を明確にして処理を委託する。  
 土壌及び水に溶出する可能性あり。
- 汚染容器及び包装：知見なし。

## 14. 輸送上の注意

- 国際規制  
 海上規制情報：非危険物。  
 航空規制情報：非危険物。
- 国内規制  
 陸上規制情報：規制なし。  
 海上規制情報：非危険物。  
 航空規制情報：非危険物。  
 特別の安全対策：水濡れ、梱包ケースの損傷に注意する。  
 ある程度の圧力や衝撃に耐え、防湿にもなるような内装を有する箱に入れる。  
 とししが破損しないように乱暴な扱いをさける。  
 転倒、落下、その他の衝撃等がないように運搬する。  
 「われもの」であり、放り投げ、落下などの衝撃がないこと。  
 異常な衝撃・力等が加わったと思われる場合は、製造者又は使用者に対して報告する。

## 15. 適用法令

- 労働安全衛生法  
 名称を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2、施行令第18条の2別表第9）  
 研削といしの取替え等の業務に係る特別教育（法第59条第3項、安全衛生特別教育規定第1条）  
 取扱い上の注意（労働安全衛生規則第2編）  
 安全装置の具備（労働安全衛生法施行令第13条）
- 粉じん障害防止規則  
 粉じん作業（第1章 第2条）
- 研削盤等構造規格  
 使用上、製造上の注意事項

## 16. その他の情報

### 参考文献等

「グライнда安全必携」中央労働災害防止協会

日本産業衛生学会

ACGIH 米国産業衛生専門家会議

「化学物質管理者研修テキスト」中央労働災害防止協会

「化学物質等の表示・文書交付制度のあらまし」厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署

[http://anzeninfo.mhlw.go.jp/user/anzen/kag/kagaku\\_index.html](http://anzeninfo.mhlw.go.jp/user/anzen/kag/kagaku_index.html)

「ガラス繊維の健康安全性に関する現状について」ガラス繊維協会

記載内容のうち、含有量、物理化学的性質の数値は保証値ではありません。

危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報・データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅したわけではありませんので取扱いには十分注意してください。

なお、GHS分類及び各純物質の情報は、<http://www.safe.nite.go.jp/japan/db.html>のデータを参照しました。